

〔科目名〕 経済演習Ⅰ				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 大矢 奈美						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 社会保障とはなにか ―経済学からのアプローチ 社会保障制度の基本的な考え方を学び、経済という視点から考えるための準備をする							
〔演習内容〕 人生において、疾病、失業、災害など様々なリスクがある。これらは経済的な不安をもたらすリスクでもある。長寿による貧困リスク、単身世帯の増加によって生じる介護問題など、深刻な問題も多い。そして家族のサイズが小さくなっている現在、個人の蓄えや家族内での助け合い(自助)では、これらに十分に備えることが難しくなっている。 我々の社会は、これらに対して「社会保障制度」を持っている。日本では社会全体でリスクを負担しようという考えに基づき、自助を共助化する仕組みである社会保険制度を社会保障の柱に据えつつ、福祉や公衆衛生など、国の施策として制度を作り上げてきた。なぜ、国の施策として、公的に備える必要があるのだろうか。そうした考えは、いつ、どこで生まれ、妥当なものとして認知されるようになったのだろうか。産業構造や人口構成、経済情勢が変化する中、社会保障制度はどのように対応しようとしているのだろうか。 経済演習Ⅰでは、まず社会保障制度の成立・発展と基本的な哲学を学び、日本の社会保障制度の特徴を経済の観点から考えるための準備をする。日本において現在のような制度の基礎が整えられたのは、1940 年代から 60 年代だが、現在とは経済情勢も人口構成も大きく異なるため、様々な問題が生じている。特に深刻なのが財政問題である。経済との関わりや社会の変化に伴う制度設計のあり方に関する議論は、3 年次の演習Ⅱ(田中秀明『「新しい国民皆保険」構想』を予定)で行うこととする。 (進め方) テキストを輪読する。報告者はテキストの内容をまとめるだけでなく、必要に応じ資料を集めて報告し、テーマを決めてディスカッションをおこなう。それらの過程で、プレゼンテーション能力やディスカッションする力、統計資料の収集方法などを身につけることも目標としたい。							
〔科目の到達目標〕 ・「社会保障」に関する基本的な考え方、日本の現状(特に労働市場と社会保障の関わり)を理解する。 ・プレゼンテーション能力やディスカッションする力、統計資料の収集方法などを身につける。							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
		○	○		○		
〔前提条件〕 自分なりの問題意識をもち、また演習に積極的に参加する意欲をもっていること。 2 年次秋学期の労働経済学を履修すること。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 特別なレポートは課さないが、章ごとに担当者を決め、各章2回を割り当てて、報告とディスカッションを行い、以下の点により評価する。 ・担当回の報告(レジュメ、ディスカッションのテーマの設定を含む)、ディスカッションの進行への取り組み ・毎回のゼミへの取り組みの姿勢(積極的な発言、報告者から出される課題への取り組み)							

【教科書等】

香取照幸(2022)『社会保障論Ⅰ』東洋経済新報社。経済演習Ⅰでは第1章から7章を予定。

(参考図書)

棕野・田中(2025)『はじめての社会保障(第22版)』有斐閣。

【実務経歴】

なし

授業スケジュール

時期	テーマと内容
第1回	ガイダンス（ゼミの進め方、自己紹介、各章の担当者の決定）
第2回	テキスト第1章 に関する講義
第3回 ～15回	テキスト第2章～7章 ゼミ生による報告とディスカッション(各章について、報告・ディスカッション、各1回ずつ)